

第5回 長野市中心市街地活性化基本計画評価専門委員会
もんぜんぷら座在り方検討部会 議事録

日時：平成30年2月22日（木）

午後1時30分～午後3時28分

場所：もんぜんぷら座3階 304会議室

出席委員：21名

岩野彰委員、金澤玲子委員、清水秀幸委員、西堀真二郎委員、柳瀬亮太委員、勝田貴子委員、轟直希委員、湯本泉委員、青木武雄委員、青木茂委員、塚田篤雄委員、太田耕一委員、宮島文子委員、西澤清文委員、山浦直人委員、落合勤委員、川北泰伸委員、西沢浩委員、大日方薫委員、山田雅之委員、乙部正長委員

欠席委員：1名

横田悦二郎委員

1 開会

2 部会長あいさつ

3 資料説明

(1) もんぜんぷら座在り方検討の方向性について

<資料1>（説明者：事務局）

(2) 新田町交差点周辺まちづくりテーマとコンセプトについて

<資料2>（説明者：事務局）

(3) 資料内容の質疑応答

質疑なし

4 議事

発言者	発言内容
議長	今まで補強長寿命化、解体再整備のいずれかという議論を進めてきたが、意見を聴いているうちにそれだけではないということで、前回私と事務局とで預かるという話をさせてもらった。 まず資料1について意見をいただいた上で、コンセプトについては次の段階で議論いただければと思う。
委員G	まず資料1の「周辺展開事業を含む」とあるのはどんなことを想定しているのかというのが一点。 同じ資料1の細目別条件整理というところに概算工事費があるが、以前の資料から大分安くなっている。この前の資料では施工中営業と施工中休館と二つあったと思うが、事務局で片方だけ挙げたということは施工中営業の方がベターだと判断したのかというのがもう一点。
事務局	一点目については、単体でもんぜんぷら座だけ議論していてもまちづくりに反映できない影響等もあるので、周辺事業の進捗ないし完成してからの様子や、今後新たに出てくる事業も含めた中で、新田町交差点周辺をどう考えていくかの検討が必要であるということで書かせてもらった。
事務局	二点目については、火災に対応するような設備で老朽化しているものは例え五年十

	<p>年でも期限を迎えているものには手を入れなくてはならないということで、必要最低限の防災用設備の老朽化に対する更新だけ行うとすると、工事範囲が非常に狭まってくるということで、業務継続と両立することができるのではないかと考えている。</p>
委員G	<p>一点目の前半は分かったが、後半の部分で、周辺展開事業というのは、周辺に銀行が2つあるのも含めての新田町交差点周辺のまちづくりかと思った。従って資料2の5事業に銀行も含めたらいいと思っている。</p>
事務局	<p>当然、新田町交差点周辺でももう少し有効な土地利用が図れるのではないかとといったところで、検討の対象にしていくということで考えている。</p>
委員H	<p>どうまとめるかというところはあるが、長期的な課題と当面の課題とに分けて整理していくという方向性でいいのではないかと思う。そうすればそれぞれの方向性が割と分かりやすくなっていくと思われる。</p>
委員I	<p>この建物は現状こんな状況で安全性も確保できないということなので、解体して整備すべきだと考えていたが、市民アンケートやこの検討会の議論を聴いて、取りまとめが非常に難しいと痛感している。従って、長期的な課題と当面の課題とに分けることには賛成する。</p> <p>質問になるが、平成32年度末までにこういった必要最低限の工事を行うということで、その場合は年間七千万円前後の施設運営費がかかるということか。</p>
事務局	<p>お見込みのとおり。長野市の耐震改修促進計画の期限である平成32年度末までに目指している耐震化率を満たすためにはもんぜんぷら座の耐震化が必要である、ということなので、それまでに構造部材の補強改修は終わるということで考えている。</p> <p>その後、例えば10年使用を延長した場合は、その概算工事費を含めて1年当たりの運営費用が示したような額になると試算している。</p>
委員I	<p>3年後までに工事をして長寿命化はせずと書いてあるが、どれくらいこの施設を保たせようと考えているのか。</p> <p>スケジュールの明確化は大事で、だらだらと長期間かけて長期的な課題の検討を進めていくのはいかなものかと思っているので、期限を切っていつまでに次の方向性を決めて解体整備に入るということを明確にした方がいいと思っている。</p> <p>そういう意味では、何年までに工事をして何年くらい保たせようというのを聞きたいのと、施設運営費が年間七千万円ということだが、現状の施設運営費はいくらなのか。というのは、この数字は今よりもかなり高くなる数字なのか低くなる数字なのかというところが読めない。</p>
事務局	<p>何年までに工事をするかということについては、平成32年度末までには耐震改修が終わることを目指していきたい。予算のこともあり、今この場で確約はできないが、そういう目標で進めていきたい。</p> <p>何年保たせるかということについては、大枠は考え方として、ロードマップそのものは改めて市民の皆様にもお考えを伺いながら決めていきたい。</p> <p>ただ、使用期限が短く、使用延長期間が短くなるとライフサイクルコストは当然上がっていく。現状でも突発的な水漏れとか色々なところで迷惑を掛けている。長く使えば使うほど、重大なものが起こりやすくなっていくというリスクがある。そこら辺を勘案していくのには少し検討期間が必要ではないかと思っている。</p>

事務局	二番目の質問で、歳出では管理運営と維持するための改修工事費等があるが、28年度の歳出としては2億300万くらい、ただ床代金とか諸々お金は入ってくるので、そういったのも引けばまあまあといったところ。
委員 I	現状ここに示されている6,900万から7,400万に匹敵する数字はなかなか出しづらいということか。傾向としてはどうなのか。高くなってしまうという感じか。
事務局	現実的には6,900万から7,400万というのは、概算工事費の4.6億から5.1億というのが相当なウェイトになっているので、それを除いた部分を10年で割り返せばランニングコストになるという考え方で、イニシャルコストの耐震補強と防災設備の工事費用が入っているということで理解いただければと思う。
議長	もう一つ委員から言われた、何年もだらだらやっても仕方ないという部分は、事前に協議して例えば10年と書いてあるが、まちづくりのコンセプトが出来れば5年でもいいのではないかと思う。 前は20年保たせる耐震工事は50億くらいかかるという話があったと思うが、そこまでということではなくて今回このような考え方を示してきたもの。
委員 E	前回までの議論の中で、長期的な課題と当面の課題の二つに分けて考えていく必要があるということ、半年や1年では計画は難しいということを感じた。その中で長期的な課題をこれから検討していくかと思われるが、周辺展開事業との兼ね合いもあるし、現段階として長野市はどれくらいの期間で長期的な課題のロードマップの作製が可能だと考えているか。
事務局	今までもそれぞれ事業が展開されてきているが、一事業だけでも5年乃至10年かけないと出来上がってこない。5年から10年を一つのスパンとして、それぞれの事業が一気に終わるわけではないので、基本的には10年単位で考えていければと思っている。
委員 E	事業がずれこんでというのはよくある話だが、最後を決めてそれに向かって出発していくのが大切なのではないかと感じている。
委員 J	長期的な課題にこれから対応していこうということだと思うが、今は市街地整備課が事務局としてこの事業を扱っているが、コンセプトを見ていくと色々な政策分野と重なってくることもあるので、単純な縦割りの組織で運営していくと、構想していることができないような気がした。 住民の側市民の側の合意形成と協力も必要だが、行政の方も組織を超えた何か新しい体制みたいなことができるのか。
事務局	公共施設マネジメント推進課に、公共施設マネジメント推進会議というものがある。その中にもんぜんぶら座専門部会というものを設けてあるので、そういった色々な部局が入った中で検討することを引き続きやっていきたい。 当然市役所だけで全て決めているわけではないので、また市民の意見を聴いたりして、地権者や事業者としっかり創り上げていきたいと思っている。
委員 T	耐震改修の費用が前は10億から13億かかると出ていたと思うが、今回は4億から5億という金額に変更になったということか。
事務局	第2回の部会で示した中には、構造部材の補強のほかに、例えば建物が揺れた時に非構造部材が壊れる被害が出ないようにする工事も含まれていた。今回示した概算工事費の中に含まれているものは構造部材の補強のみで、耐震改修促進計画で求められ

	<p>ているIs値0.6以上を満たすのに必要最低限の補強を行うということなので、そもそも工事の内容が狭くなっている。</p> <p>もう一つ、以前は施設長寿命化というものも入って10億から13億というような金額を提示したと思うが、今回示した4.6億から5.1億の中には長寿命化が入っていない。こういったことで工事の金額が変わっている。</p>
委員T	何年先なのか、20年先の補強のための長寿命化か。
事務局	<p>20年保つか保たないかということで数字を示したわけではなく、長野市の公共施設等総合管理計画の中で、大規模改修に40年サイクル、中規模改修に20年サイクルというものが示されていたので、20年というのをある程度の目標にしていくということで示したもの。</p> <p>そういう意味では長寿命化したところで20年保つというようなものでもない。20年以上保つかもされないし、それより前に壊すか改修しなければならないということになるかもしれないが、そこまで行くことを想定した金額になっている。</p>
委員N	既にこの場所を直すという話になっているのか。そんなこと地元は考えていない。皆さん勝手なこと言われても困るが耐震改修ということで話しているのか。
議長	<p>今ここで話しているのは、あくまでも今まで色々な話をしてきた中で、まちづくりもこの建物一つでは考えられない、まちづくりということも視野に入れたいという話が沢山あった中で、今日明日壊して何か建てるということではなく、もう少しまちづくりという議論の中にこの建物も入れたいということ。</p> <p>とりあえず必要な設備の保守と若干の耐震、使っている人に怪我があってはいけないので最低限のところをやって、最長10年の議論の中で建物の在り方も見直していこうということで、直してずっと使うということではない。</p>
委員N	<p>今でもここは遅れている。またそういう議論を始めるとTO i GOなんか35年経ってやっとああいう風になった。皆さんは地元のことを知らないと思っている。まちはまちで一生懸命やっている。相談も私のところに来ている。だからそれをまた10年も遅らせられれば、本当にこのまちはどうなるのか。まずは地元の人を優先していかなければいけない。</p> <p>このビルを簡単に直すなんてこんな金でできるわけがない。本当にできると思っているのか。</p>
委員B	<p>論点を整理すると、色々な意見の中から、当面解決しなければいけない課題と、長期的な視野に立ってこのまち自体をどうしていくべきかの二方向で方向を出していこう、最低限の耐震改修と防災設備機能の更新の工事をしている間に、新田町交差点の将来のあるべき姿をもう一度みんなで見直し検討していこう、ということで、耐震改修をしたから10年保たせよう20年保たせようということではないと受け取っている。</p> <p>その結論が出るわずかな間だけ、もんぜんぷら座が建築基準法の新耐震基準を満たしていない大変危険な建物であるだけに、速やかに耐震改修と防災設備機能の更新だけはしておかなければならない。このまままちづくりの結論が出るまでもんぜんぷら座を放っておくわけにいかない物理的な事情もあるので、当座の応急措置として最低限の防災設備と耐震改修をして、耐震基準をとりあえず満たした建物にしておこう、という風に解釈しているがいかがか。</p>

議長	お見込みのとおり。
委員B	まちの人のことも考えているのだけれど。できるだけ短い間に…。
委員N	いや、そのままになっちゃう気がするけれど。
委員B	それが今回の検討会の一つの議題でもある。ダイエーが撤収した中で長々と議論してきた経過があって危惧されていると思うが、それは最終的な委員会の中で、行政も含めて約束事項としてコンセンサスを作っておけば、何とかそのあたりで容認いただければと。
委員N	いや皆さん知らないんだなあ。駅から善光寺まで上がっていく中でここら辺が一番寂れているのではないか。それを皆さんどうして分からないのかと思う。
議長	<p>地元の皆さんからはそういう話を聞いている。今回も、この部会が与えられた役はこの建物ということだが、議論の中でこの建物だけどうにかしても、新田町全部を考えなければいけないというところもあり、事務局と私で話した時も5年くらいで答申しようかというように話し合ったところだ。地元がまた置き去りかという懸念はあるけれど、逆に言うと住んでいない我々でもまちが駄目になってしまわないように答申していきたいと思うし、その後の議論の中にこの委員も入って早急に結果を出して、まちの構想が決まればこの建物はこうしようとできることなので理解いただきたい。</p> <p>もう一つは、やはり行政なので今使っている皆さんの希望も無視はできない。難しいところだが、折衷案的に今回このスキームを組み立てていった。</p> <p>まだまだ議論があると思うが、次のコンセプトも議論いただいて、その中でスキームについても何かあれば言うていただければと思う。決して地元の方の意見を封ずるでも何でもなし、我々も我々なりにこのまちが良くなれば良いと考えてはいると理解いただければと思う。</p> <p>それでは資料2のテーマとコンセプトについて意見を願います。</p>
委員H	<p>私どもも何もしなくていいということでは言うているわけではなく、やはりこの位置は市の中でもまちづくりの中核になってほしいと思って色々意見が出ていると思うので、そこはぜひ理解いただきたい。</p> <p>今回長野市がこういう部会を設けているので参加しているが、やはり来年度以降直ちにその長期的な課題の検討に入るということを何らかの形で、そういう答申なりのまとめ方をしていく必要がある。それが前提に無いと先送りされるのではないかという気持ちも当然出てくると思うので、まずそういう中身を委員会としてまとめたかどうか。</p>
委員S	<p>資料2のテーマについて、上から四段目「今ある資源を有効に活用」という中の、資源というものをどのように捉えているのか具体的に教えていただきたいと思う。</p> <p>次に一番下の、「ニーズにフレキシブルに対応できるまちづくりを目指す」、これを市としたらどれくらいのスパンで考えているのか。フレキシブルということであれば建物自体のフレキシブルさも考えてのことだと思うが、もしそのような考えがあるのなら具体的に示してほしい。</p> <p>次に「市のメインとなるシンボリックな都市空間」、これはこの建物も含まれた話なのか、それとも再整備が行われるセントラルスクエア、善光寺の横にある城山公園、信濃美術館が新たに出来てくるという話で、ここの地区は含まれていないのか。もし</p>

	<p>もんぜんぷら座が含まれていて、この地区がシンボリックな都市空間ということになれば、どのようなものをシンボルと捉えているのか教えてほしい。</p>
事務局	<p>まず資源とは、人・モノ・情報全てで、これまでにまちとして作り上げてきたもの、例えばT O i G Oとか、中央通り歩行者優先道路化とか、善光寺周辺街並み環境整備とか、これまで取り組んできたことを無にして一からまちをつくるのではなくて、今ある良いものは有効に使っていこうという考え方を表現した。</p> <p>二つ目のフレキシブルも、一度作ったハード、建物とかの使い方を変えとか、間仕切りが変わるとかいうことで対応できるフレキシブルさと、建物そのものを全部壊して立て直さなければならないということもある。それから例えば組織、会社、サークル、N P O、もしくはそれらの繋がりネットワークということもあるかもしれない、そういったものもニーズに合わせて新たに繋がり直すことで対応できることもあるのではないかと思う。</p> <p>三つ目の地区については、この資料は新田町交差点周辺のまちづくりについてなので、当然ここも対象に考えている。ではどのようにシンボルを考えているかといったとき、先ほどのスキームを前提に言うと、例えばT O i G Oと対角線の所には何らかの空間的広がりがあるといいよねということが出来るかもしれないし、その他のまちなみの中でここには新しく大きな建物があって、長野の中では比較的近代的だよねということでシンボリックになるのか、色々なアプローチの仕方があると思うので、これからも検討していくとして、まず中心市街地のメインを目指すというところを示したかったということ。</p>
委員N	<p>前から第四地区でワークショップを開くと聞いていたが、開かないままこういう決定になるのか。</p>
事務局	<p>公共施設マネジメント推進課と市街地整備課で、第四地区あるいは新田町交差点のまちづくりワークショップの時期について協議をした時に、ワークショップで出た意見を部会として聴かなくていいということならいいが、皆さん方で考えていただいたものはやはり大事にしたい、ただそれありきで部会を運営するというのはなかなか難しい。全市民のご理解をいただけるか非常に疑問だったので、まずは部会として一定の方向性をいただいた中で、何を実現していこうかという部分をまちの皆さんと一緒に考えていきたいということで、ワークショップについては部会の方向性の後でと調整したということです。</p>
委員J	<p>ここの取り組みは市街地整備課なので、市街地を整備するとか、新田町交差点周辺をどうするということを含んでいくから仕方ないかもしれないが、ちょっと視点を変えて、市内の周辺地域に関してはこのコンセプトなり、もんぜんぷら座の方向性はどういう意味合い、メリット・デメリットが出てきそうか。</p>
事務局	<p>いわゆる郊外の方に対してということか。</p>
委員J	<p>もんぜんぷら座はこの地域にとって良い場所になるように考えるということだが、視野を広くするとやはり長野市の公的施設でもあるので、長野市全体にとって良いものになる必要もあると思う。</p> <p>この部会で出てくる話はこの地域の目線で考えることが多いが、周辺地域の目線に立って考えると、同じ市民である周辺地域の人にはどういう良いことがあるのか。</p>

事務局	<p>市民が対象であるし来街者が対象でもあるので、特別郊外の方というわけではなく、市民と来街者という分け方で考えている。郊外だけを取り出してその位置付けはどうかという話になると、コンセプトを戦略とすればその中の戦術の部分でどうやるかという部分かと思う。</p>
委員B	<p>検討部会としての方向性を出すまでに時間的なゆとりが無い中で、当面の課題として構造物としての基準を満たすための耐震改修工事と最低限の防災設備機能の更新をやるという考え方で方向をまとめたということでもいいでしょうか。</p>
議長	<p>検討部会としての方向性をもう少ししっかりした方がいいのではないかという指摘だと思うが、今回提案した折衷案で地元の方には不満もあるようだが、やはりまちづくりも視点に入れると、当面必要なだけの改修をして、最長10年の間で建物としては解体、そして新しいものにするという答申になろうかとイメージしている。</p> <p>ただそれを今、将来壊しますというところまで踏み込むかは別として、当面10年間、私としては5年間くらいがちょうどいいかとも思っているが、今使っている人への猶予、それからテナントへの猶予も考えるとここらへんだと思っている。</p> <p>私どもとすれば、実はこのまちのことは色々考えているつもりではいるが、なかなか今日壊して明日からマンション建てようとは出せない結論だと思っている。</p> <p>少しこのような結論を踏まえて、テナントの方はどうお考えか。</p>
委員T	<p>先がどうなるかは分からないが、とりあえずは耐震をかけてやっていく方が賢明ではないかという気はしている。</p>
委員S	<p>テナントに猶予をという言葉に引っ掛かる。私どもの店はここに元々土地があって店舗もあったものを、再開発ということで供出して、また今は公共のトイレだとかパントリーになっているところの工事費を出したような経過もあるものが、市の持ち物になったことによって権利が失われたということもある。</p> <p>テナントとしてみると、議長からこの建物は解体せざるを得ない建物だという言葉があり、長野市からも使用期限が来たならばというように一定の認識は双方出ていると思うので、やはりここは解体せざるを得ない。安全のためにもまちづくりのためにも再開発をしなければならない。そしてその再開発に当たっては周辺の皆さんのヒントや模範になるような施設を作ることができればと考えている。</p> <p>せめて再開発に踏み切るという年代までは、きちんとした日付を、期限を入れたらどうか。</p>
議長	<p>猶予という言葉は失礼だったが、強い意味で言ったわけではないので理解いただきたい。これは答申なので、この年度でどうかというのは当然入れるべきだと思っている、それは今の意見を参考にさせていただきたいと思う。</p>
委員R	<p>TOMATO食品館ができたのは、ダイエーが撤退して地元の方5,610名から書面をいただいて、生鮮食品がまちなかで買えないと困るということで出店したという経緯がある。民間は誰も採算が合わなくて入りたがらないので、結果として第三セクターとして運営しているが、足元人口が少ない中で売り上げ的にはかなり厳しく、ここで儲けているとかは全くない。</p> <p>南石堂町の西友ももうじき閉鎖して20年度に新しくできるということで、お買い物の方はどうするのだろうかということだけが心配だったので、長期的な課題と当面の課</p>

	<p>題とに分けて、とりあえず将来のことに向けて現在としては考える猶予を作るということについては大賛成。</p>
委員K	<p>考え方自体は問題ないと思うので、これを受けてテナントとして詳細を決めていこうと思っている。</p> <p>ただ、長期的な課題と当面の課題に分けたことは理解しているが、ちょっと先延ばしをしたという感じもあるので、長期的な課題の部分でのロードマップをしっかりとスケジューリングしてもらうことが非常に大事だと思っている。</p>
議長	<p>ご指摘のとおりで、少し先延ばししたのかなと私自身も思っているが、ただまちづくりというのはそう簡単ではないということも思い知らされた。</p> <p>次回についてはもう少し大枠で、色々想いもあるだろうが、仕方ないかということも含めて理解いただいた気がするので、まとめ方についてお示ししたいと思う。</p> <p>それではもう一度コンセプトのところに戻って何かあれば意見をいただきたい。</p>
委員B	<p>議長の方で方向をまとめてもらって、基本的には皆さんの総意という中でやるということでもまあよかったと思う。</p> <p>基本的に社会の動態というのは人口減少超高齢化という形で進行している。長野市の場合も人口は減少しているというのは将来の都市像を考える上で捨て置けない部分だと思う。</p> <p>この新田町交差点周辺の現況はどうだと考えた時に、通過動線上にはあるものの、滞留動線にはなっていない。1970年代には丸光があって丸善があって、丸善が駅前に移ってもダイエーができて、県内屈指の滞留動線があった。現在を見てみると、TOiGOは残念ながら滞留ツールとしての役割を果たしていない、もんぜんぷら座とて完全には果たしてはいないというのが現状だと思う。</p> <p>長野経済研究所がまとめたデータで長野市の地域別消費経済占有率というのがあるが、長野駅周辺が65%くらい、権堂地区が約7%、善光寺門前が2.8%くらいに対して、新田町交差点周辺は1.6%、そういう中で新田町交差点をどう考えていくということになると、コンパクトシティの中核の場所になることは多分間違いないと思う。</p> <p>手っ取り早く賑わいを創生するには、間違いなく定住人口を増やすということが大きな中心市街地の役目であるに違いない。定住人口を増やすには商業地域という特性を生かした土地の高度利用を考えていかなければいけない。そのためにはTOiGOともんぜんぷら座の二つだけ考えていけばいいのかということではなく、両角地に位置する銀行も入ってもらわなければだめで、その中で民間活力を導入した都市の再開発ということも視野に入れて歩いて暮らせる街を創生していくことを考えていかないと難しい。</p>
委員E	<p>今の話で、定住人口を増やすということが響いた。資料2の地図のところでも丸く緑とか青で示されている部分、赤い部分という全体を考えていく中で、住んでいる人のことも考えていかないといけないところがある。今、どこの地区でも空き家問題が大きくなっていて、仮に表通りが賑わっても一歩裏に入ると空き家だらけというのでは寂しすぎると思う。そう考えると、表面的な部分だけではなく、この地域をもう少し広げた形で考える必要があると感じた。</p>
議長	<p>ちょうど今中心市街地活性化協議会で来月2回空き家問題のゼミナールを企画して</p>

	<p>いるのでお越しを。</p>
委員D	<p>歩いて暮らせるという意見がずっとあった中で、子供を連れて歩ける距離を目安にまちづくりを進めていくのがいいのではないかと考えている。今高層化の話が出てきたが、マンションを建てたときに居住してくれる人が、実際まちにとってどう働くかということも考える必要がある。</p> <p>この地域全体の人口密度を考える中で、今空き地、空き家が多いが、そこを高く積むというよりは広げて配置を考えていってもいい。高密にしていくことのメリット・デメリットは両方あると思うので、上に住む人は眺望など良いと思うが、歩いている人からすればもちろん悪くなるわけで、まちの資源ということを考えていく上で頭に置いてもいいのではないかと思う。</p>
委員F	<p>私自身実家が長野市の七二会という所で、都市施設なんでもものは全くなくて、ギリギリで生活している。そういう中で我々は、行政からサービスは与えられるものではなく、ある程度自立していかなければならないという覚悟の元で生活しているという状況なので、この場所というのは非常に恵まれていると感じるし、まちなか居住というものを促進していかなければならない、集約型都市構造という意味では非常に重要な位置付けであると理解はしている。</p> <p>しかし、まちなか居住ということでここにマンションを造る、そうしたときここに住む人はどこから来るのだろうかと考えたときに、結局は長野市内で人の取り合いをしているのではないか。ここで人が増えるということは、どこかで人が減っている地区があるということで、そこを見捨てていいのかという議論にもなりかねないので、そののところはしっかり全体を見て考えなければいけないということと、市民といっても郊外に住んでいる人とここに住んでいる人がいて、観光客とここを利用している方、さらにはここに住んでいる方という三つの視点があると思うので、そういうような形で整理していくと、在り方というものがより明確になってくると考えている。</p>
委員J	<p>様々な専門家の方がいて悩んでしまうところがあるが、話題に出ていない視点はまちを創るのは誰なのかという視点。都市整備の話になると、どうしても建築の知識やまちをどういう風にゾーニングしていくのかという話題になってくるが、住民・市民がまずまちづくりの主体になれたり、関わっていったり、参画していったりすることを考えるのもどこかの時点で必要なことだと思う。持続可能なまちとか、まちの魅力が出てくるときは、やはりそこに住んでいる人が生き生きしていたり活発であったりするので、そういった意味での文化の土壌ができていったらいいと思う。</p>
委員I	<p>とりあえずは耐震補強をしてということだったが、あまり先延ばしにするのもいかなものかと思う。議長から最長10年、そうはいつでも5年という発言があったが、私もせいぜい5年くらいで決着をつけないとずるずる行ってしまうのではないかと、それではまずいと思う。本来ならば意見がまとまって解体再整備ということが望ましいが、現状無理なのでこの場は凌いでということだが。</p> <p>資料2でコンセプトが示されているが、コンセプトが総花的というか、あれもこれも入って幕の内弁当みたいになっているというのが率直な感想で、必要でないものを削ぎ落としていく作業が必要ではないかと思う。もう少しエリアとして何が足りないのかという視点で考えていってはどうか。コンセプトに3つ掲げられているが、軸足</p>

	<p>を置くべきだと思うのは一番上の「市民対象の～」というところ。先ほどから歩いて暮らせるまちというのが出ているが私も同感で、少子高齢化に対応した複合施設を増やすというのがいいのかなというのが個人的な意見。</p> <p>長期的な課題と書いてあるが、中期的な課題という程度に認識して、早めに方向性を出して再整備に向かうことを望みたい。</p>
委員G	<p>市民協働サポートセンターに「長野市のまちづくりの拠点もんぜんぷら座の未来を語ろう」というチラシがあって、ゲストとして長野市市街地整備課職員とあった。色々意見を出し、知恵を出し合うのはいいが、歩いて暮らせるまちというテーマがない中でただ意見が出て参考にならないと思うが、市は関わっているのか。今日の議論にあるように長期的な課題と当面の課題の二本立てで検討していくのは賛成なので。</p>
委員R	<p>私は市民とか民間団体が自主的にこの場を良くしようと考えることは非常に良いことだと思っていて、それが使われるかどうかは置いて、新田町のある第四地区の方々も市を待たないで自分達でワークショップを開いて、市に来てくださいと言って呼べばいいと思っている。</p>
委員N	<p>何回も開こうと思っているが待ってくれと言われている。</p>
委員R	<p>知らずに言ってしまったことは申し訳ないが、この場所は住んでいる人にはすごく大事という事は分かるし、長野市民にとっても大事なもので、色々な場所で自由に話し合っ、自分達はこうまとまったということを市にぶつけるのはすごく良いのではと思っていて、そこに対して市街地整備課が協力することは良いと思う。</p>
事務局	<p>以前市民協働サポートセンターから相談があり、もんぜんぷら座をテーマに好き勝手にまちのことを考える機会を持ちたいが、もんぜんぷら座についてあまり知っているわけではない中で、もんぜんぷら座の在り方検討が今どうなっているのか、建物の状態はどうなっているのかを聴きたいので、教えてほしいということだった。</p> <p>そこでいただいた意見を長野市の考え方として取り入れますので聴かせてくださいという意味で何うわけではなく、事実としての状態をお話しすることはできるが、議論を頂戴することはできませんということで出席することになっている。</p>
議長	<p>今日お集まりの委員さんは、ここのことを本当に一生懸命に考えていただいているのは毎回感じているし、委員長をやることになった当初に着地点が決まっていなかったのはこの部会が初めてだ。</p> <p>ただ、時間というものは決まっているので、今回この案をお示しした。次回は今回いただいた意見も取り入れたまとめの案を示すことになるかと思うが、個人的にも期日は大事だと思うので、そのような答申にさせていただきたいと思う。</p>

5 連絡事項（説明者：事務局）

- ・本日の会議も議事録を作成し、資料と共にHPで公表する
- ・前回までの資料と議事録は既に市街地整備課のHPに掲載してあるので確認願いたい
- ・第6回検討部会は、3月27日(火)午後1時30分から 市役所第二庁舎10階講堂で開催、資料が整い次第通知する

6 閉会